

令和6年 第12回

「家族のきずな」エッセイ集



主催：愛媛南予モラロジー事務所
後援：西予市・西予市教育委員会
西予市小中学校長会・西予市PTA 連合会

第12回「家族のきずな」エッセイ集

<目次>

<2> 主催者あいさつ

愛媛南予モラロジー事務所 開催責任者 栗野達良

<4> 講評

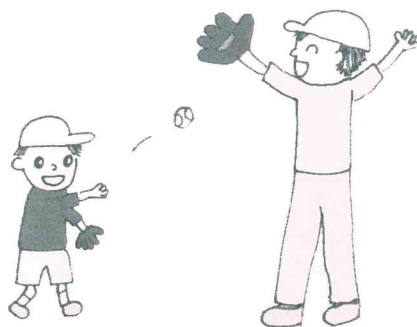
審査委員長 松澤正仁

<6> 入賞・入選作品一覧

<7> ご応募いただいた学校

<8> 入賞作品

<13> 入選作品



モラロジー教育では3つの心を育てます

「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にす
る尊敬性を育みます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育
てます。

「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛
みへの共感性を育みます。そして自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に
奉仕する深いやさしさを育
てます。

「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会
人、また国民としての責任感や使命感を育みます。そして地域や国際社会に目を
向けていくたくましさや育
てます。

モラロジーとは

モラロジー(morality)は「道徳」を表すモラル(moral)と「学」を表す(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きる為の指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

モラロジーの内容

モラロジーでは、一人ひとりの幸せと心豊かな社会の実現には、人間の品性を高める質の良い道徳の実行が必要であると考えています。

一般に、道徳は「人間の行為の規範」と理解されているように、行いや形式面が強調されがちです。モラロジーでは、行いはもちろんですが、それ以上に行いのもととなる心の在り方(心づかい・考え方)を重視しています。

愛媛南予モラロジー事務所

愛媛南予モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー道徳教育財団より設置を承認された団体であり、よりよい社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行っています。又、生涯学習活動などを通じて累代教育を推進しています。

主催者あいさし

愛媛南予モラロジー事務所 開催責任者 粟野 達良

この度、愛媛南予モラロジー事務所主催の第十二回「家族のきずな」エッセイ募集を市内小・中学校の児童生徒の皆様を対象にお願い致しましたところ、一五六編の応募をいただきました。

今回も入賞・入選作品は優れた作品が多くあり選考に苦勞致しましたが、この冊子には、入賞五編・入選十五編の二十編を掲載しています

当事務所は、公益財団法人モラロジー道徳教育財団の理念を継承し「道徳で人と社会を幸せに」のスローガンのもと、住みよく明るい地域づくりを目指し様々な活動を展開しています。この「エッセイ募集事業」もその一環としての取り組みです。

このエッセイ募集事業が、長きにわたり開催することができましたのも、関係機関や各学校の校長先生をはじめ関係者の皆様のご尽力のおかげと、感謝申し上げます。

昨今、いじめ問題、不登校などは減少することなく、むしろ増加傾向にあるとマスクミの情報で知りました。

そんな時、誰よりも一番頼りになる存在が家族であることは論を俟ちません。この事業を通じ、児童生徒の皆様だけでなく、ご家族の皆様方にも「家族のきずな」を再確認していただくきっかけになればと思います。

このエッセイ募集に対しまして、ご後援いただきました西予市、西予市教育委員会、西予市小中学校長会、西予市PTA連合会、及び、募集にご協力をいただきました各学校の校長先生をはじめ担任の先生方、協賛いただきました各企業、団体の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。又、四〇〇字以内という限られた字数の中で、心温まる作文を書いてくださいました児童生徒の皆様方に心より御礼申し上げます。

終わりに、このエッセイ募集を通じ、児童生徒の皆様方の「思いやりの心」・「感謝の心」・「自立の心」を育てる契機になれば幸いに存じます。

選考を終えて

審査委員長 松澤 正仁

児童生徒の皆さん、また関係者の皆様、今年も「家族のきずな」エッセイにご応募、ご協力を戴き、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルスが昨年五月、五類に移行し、少し世の中も落ち着いていくのかなと思っていました。しかし、今年の四月に豊後水道で大きな地震が発生したり、また猛暑が長く続いたり、自然の猛威になす術もありません。このような時代だからこそ、「家族と一緒に頑張ったこと」や「命の繋がり」を考えることは、未来のある子供達にとって大事なことだと、エッセイの意義を好意的に捉えて戴きました。入賞された作品に短い選評を記し、お礼と致します。

○西予市長賞「もし災害が起こったら」（明浜小 六年 伊勢賢志朗君）

危機管理課に勤める父親を頼もしく感じて、その姿を冷静に見つめて書いています。最後の一文にある「家族を守る準備」に六年生としての成長を感じました。

○西予市教育長賞「春に会える私の魔法使い」（明浜小 五年 片岡奏菜さん）

「魔法の言葉」が、奏菜さんを大きく変えました。祖母への感謝と変わった喜びが綴ら

れています。今度は奏菜さんから祖母への番だと、気持ちを込めて書いています。

○西予市PTA連合会賞「弟が生まれた日」（皆田小 三年 島岩駆君）

弟が生まれた日を思い出しながら、弟への慈しみが書かれています。初めて抱っこして自作の子守歌を歌ってあげた時の弟の表情が、秀逸です。

○モラロジー道德教育財団賞「おじいちゃんの家」（田之筋小 四年 正司聖哲君）

お盆に母親の兄弟家族が集まって、亡き祖父母を偲んでいる様子が浮かんできます。和尚さんのおっしゃる通り、手を合わせて祈るといふ経験が大事ですね。

○愛媛県モラロジー協議会賞「熱」（城川中 一年 木下幹菜さん）

熱を出した幹菜さんへの家族の対応が、ユーモラスに綴られています。仲が良くて、何でも言い合える家族のようです。「家族の力」という言葉が印象的です。

今年も、惜しくも賞に入らなかった作品にも、ほのぼのとした家庭や家族の様子が綴られています。家庭は、子供達にとっては初めて出会う社会集団です。家族に見守られて育った子供達は、父母や祖父母、また兄弟姉妹を愛し、そして、先祖や故郷を大切に育つていくことなのでしょう。

ご応募いただいた学校(順不同)

(小学校 11校)

三瓶小学校	明浜小学校	石城小学校
多田小学校	中川小学校	田之筋小学校
皆田小学校	野村小学校	城川小学校
惣川小学校	大野ヶ原小学校	

(中学校 4校)

三瓶中学校	明浜中学校	野村中学校
城川中学校		

選考会

第1次 審査委員(選考)

愛媛南予モラロジー事務所会員

第2次 審査委員(選考)(順不同)(敬称略)

委員長 松澤 正仁

特別委員 酒井 教子

委員 石山 利明

委員 石山 律子

委員 粟野 達良

※特別委員=特別審査委員の略称

令和6年度 第12回「家族のきずな」エッセイ 入賞・入選一覧

○最優秀賞	西予市長賞			
もし災害が起こったら	明浜小学校	6年	いせ 伊勢	けんしろう 賢志朗
○優秀賞	西予市教育長賞			
春に会える私の魔法使い	明浜小学校	5年	かたおか 片岡	そな 奏菜
○優秀賞	西予市PTA連合会賞			
弟が生まれた日	皆田小学校	3年	しまいわ 島岩	かける 駆
○優秀賞	モラロジー道德教育財団賞			
おじいちゃんの家で	田之筋小学校	4年	しょうじ 正司	まさあき 聖哲
○優秀賞	愛媛県モラロジー協議会賞			
熱	城川中学校	1年	きのした 木下	かんな 幹菜
一入選15編一				
生まれてきてくれてありがとう	三瓶小学校	3年	はしもと 橋本	すばる 澄晴
そばにいて支えてくれる家族	明浜小学校	6年	はらだ 原田	ちづる 千鶴
ぼくが、入院の時に思うこと	石城小学校	5年	いなだ 稲田	そうた 蒼太
忘れられない家族の言葉	多田小学校	6年	わたなべ 渡邊	ふうか ふうか
ぼくの弟	中川小学校	3年	おかの 岡野	たいち 泰知
離れて気付いたぬくもり	田之筋小学校	6年	にのみや 二宮	そうま 颯馬
ステキなチームワーク	野村小学校	3年	しんざき 新崎	な お 奈央
私たちなかよし三人きょうだい	惣川小学校	2年	かわうち 川内	あおい あおい
自慢の妹	大野ヶ原小学校	6年	よしい 吉井	ちの 千乃
「ありがとう」を伝えたい	三瓶中学校	1年	なかがわ 仲川	さ ら 紗來
母から受け取るお弁当	明浜中学校	2年	たなかめ 田中萌	あり 亜里
お兄ちゃん	野村中学校	1年	うつのみや 宇都宮	わか 花
いつもありがとう	野村中学校	1年	おおつか 大塚	りゅうき 琉生
家族の支え	野村中学校	1年	みせ 三瀬	そうま 聡真
思い出の交換手紙	野村中学校	1年	ふじわら 藤原	ゆま 夕万

西予市長賞

もし災害が起こったら

西予市立明浜小学校 六年 伊勢 賢志朗
いせ けんしろう

四月十七日深夜に、豊後水道を震源とする地震が発生しました。ゆれに驚いて起きたもののボーっとしていた僕に、お父さんが「すぐに着替えて避難できるように準備して。」と言いました。僕は、非常持ち出し袋を家族と確認して、テレビを付けて待機しました。

僕のお父さんは、市役所の危機管理課で災害時や緊急時に放送をしたり、情報を関係機関に届けたりする仕事をしていて、地震の後すぐに出勤していきました。

頼りになるお父さんが災害時にいないと思うときさみしいし不安です。今、巨大地震が起こる確率が高まっていて、自分は生き残れるかな、家族は大丈夫かなと心配になります。

お父さんは、すぐに判断して行動することが大事だと言います。もし地震が起こったら、小学一年生の妹と一緒に避難すると決めています。災害への備えをする時も防災グッズを準備するだけでなく、家族を守るといふ気持ちも準備しておこうと思います。

春に会える私の魔法使い

西予市立明浜小学校 五年 片岡 奏菜
かたおか せな

私には、福岡に住んでいるおばあちゃんがあります。年に一回春休みに会いに行きます。四年生の私は、自信がなく、意見を言うことが苦手でした。そんな私におばあちゃんは昔の話をしてくれました。おばあちゃんも昔は、自分に自信がなく、自分のことがきらいだったけど、努力して、少しずつ変わっていくことができたという事を。そして、「おばあちゃんが変われたんだから奏菜ちゃんも絶対変わるよ。」と、言ってくれました。私は、その言葉を聞いて、がんばって一歩ふみだせば、私も変われるのではないかと思いました。

春休みが終わって、五年生になると、不思議と自分の意見が言えるようになりました。おばあちゃんの魔法の言葉のおかげで、四年生の私より今の私の方が好きになりました。今度は、私がおばあちゃんに魔法の言葉を言ってあげられるようになりたいです。

おばあちゃん、ありがとう。

西予市教育長賞

熱

西予市立城川中学校 一年 木下 幹菜
きのした かんな

私が小六の卒業近くの頃、熱を出してしまつてふとんで寝込んでいる時にお父さんが私のふとんにモグラのように速く入ってきました。そのとき「娘の熱はお父さんに移せ。」と言われ、私はその言葉がうれしくて早く治らないかなと思ひました。けどお父さんは私のふとんをうばつて寝ようとしていました。私はうばい返していつのまにかうばい合戦をしていました。そこへ姉上も入つてきて「私にも熱移せ。」と言われ、私は「学校休みたいのか。」と思ひました。お母さんも入つてきて同じことを言われました。

そして、愛猫もすり寄つて来て、私は『この家族に生まれてよかった。』と心の底から思ひました。卒業式も無事に行けて休みも誰一人もなく、最高の卒業式になりました。家族の力なのかなあと思ひました。もし、私がまた熱を出してしまつたらまたあんなふうになるのかなあと思ひました。お母さん、お父さん、姉ちゃんへ優しく、温かい言葉を本当にありがとう。

生まれてきてくれてありがとう

西予市立三瓶小学校 三年 橋本 澄晴
はしもと すばる

ぼくには、一つ下の弟がいて、お母さんとお父さんの四人家ぞくです。お母さんのおなかがだんだんと大きくなつてきて、お母さんに、

「なんでおなかが大きくなつてくるの?」

と聞くと、

「赤ちゃんだよ。」

と言われました。新しく弟が生まれてくるのがすごく楽しみで、うれしかったです。

ぼくは、長男として毎日お手つだいをすることにしました。少しでもお母さんのふたんをへらせるようにするためです。ぼくがお手つだいをすると、お母さんとお父さんに「いつもお手つだいしてくれてありがとう。」

と言われました。ぼくは、「ありがとう」という言葉を聞いて、温かい気持ちになりました。

弟が生まれ、五人家ぞくになりました。新しい命が生まれてきてくれて、ありがとう。

そばについて支えてくれる家族

西予市立明浜小学校 六年 原田 千鶴 はらだ ちづる

私の祖母は認知症でした。五十才をすぎればらくしてから物忘れがひどくなり、気がつくとき冷蔵庫にはきゅうりが十本あったり、やきそばに粉が入っておらず、うす味のやきそばが出来上がったりして、少しずつ「おかしいな」という事が増えていきました。とても仲の良い祖母と祖父だったので、少しずつ変わっていく祖母を見るのがとても辛かったそうです。それでも祖父は毎日のように「お母さん」と祖母に声をかけました。祖母が自分の事ができない時も「大丈夫？」と祖母によりそう祖父は、本当にすごいと思いました。

そんな祖母が今年の七月亡くなりました。まだ六十才だったということもあり、祖父はたくさん泣いて「何もしてやれなくてごめんな。」と何度も何度も祖母に謝っていました。しかし認知症が進む中、祖母も不安で辛かったと思います。そんな中、祖父の優しい姿は絶対に祖母の支えになっていました。辛い時にそばにいてくれる家族を大切にしたいです。

ぼくが、入院の時に思うこと

西予市立石城小学校 五年 稲田 蒼太 いなだ そうた

ぼくは、うまれ付き骨がまがっています。そのため、生後数か月から装具を付けて生活をしていました。ぼくが小学二年生の夏に骨をまっすぐにする大きな手術をしました。それ以降は、八から九か月に一回手術をするようになりました。

一回目の手術は岡山でお母さんと二人だったのでお父さんに会えず、さみしかったです。でも、テレビ電話があったので顔を見て安心する事ができました。

二回目以降は、愛媛県だったので入院も短くて、お父さんがむかえに来てくれました。ぼくが、いつも入院の時に思うのは、遠くはなれていてもスマホがあれば、声を聞く事が出来て顔を見る事が出来ます。また、写真やビデオを送る事が出来ます。だから、いつも家族や友達とつながる事が出来て、おうえんやはげましをしてもらったり、逆にしてあげたりします。そんな時に、家族や友達のおかげでたくさんのおきずなを感じます。

忘れられない家族の言葉

西予市立多田小学校 六年 渡邊 わたなべ ふうか

私には、家族の忘れられない言葉があります。それは、「自分のペースで自分らしくがんばれ。」と言われたことです。それを言ってもらい自分のペースであせりすぎずにこれからはがんばりたいと思いました。そう言ってもらって、とてもうれしかったです。

二つ目は、「周りの人と比べなくていいんだよ。すぐくがんばったんだから。」と言われたことです。私のテストの点数が悪くて、比べてしまったその時、そう言ってもらえました。だから、『自分が、がんばれたと思ったらいいんだな』と思いました。「自分なりにがんばれたならそれでいいと思うよ。」とも言ってくれました。うれしかったです。

私は、みんなにそう言われ、とてもうれしかったし、人と比べなくていいんだなと改めて思いました。だから、一番は、自分らしく、自分のペースでがんばるのが大切だと思いました。

ぼくの弟

西予市立中川小学校 三年 岡野 おかの 泰知 たいち

この春、弟が生まれた。ぼくは、四人兄弟の長男になった。はじめてびょういんで弟を見た時、弟は目をつぶっていた。それでも弟はともかわいかった。

弟が自宅に帰ってきてきてベットのうえでねむっているすがたを見た時、やさしくしてあげたいなと思った。

春がすぎ、夏がきて、弟はよく笑い、ね返りをするようになった。ね返りをするとき、スフィンクスみたいなしせいになり、ぼくにニコニコ笑顔を見せてくれる。その笑顔を見ると、ぼくはいやされた気持ちになる。そして、きげんがいい時には、話しかけてくれる。話しかけられると楽しい気持ちになる。

これから弟はハイハイをし、立って、歩けるようになる。今は何を言っているかわからないけれど、少しずつ言葉をおぼえ、話せるようになる。そんな弟と、ぼくはたくさん遊んで話したい。ぼくは長男として、みんなにやさしくし、兄弟なかよくしていきたい。

離れて気付いたぬくもり

西予市立田之筋小学校 六年 二宮 颯馬 このみや そうま

「元気でがんばってる？会えなくてさみしいよ。」母からもらった手紙の言葉だ。ぼくは同じ気持ちだなと心が温かくなった。

ぼくは、地域行事で一週間の通学合宿に参加した。炊事洗濯をすべて自分たちで行いながら学校に行く。とても大変だった。家族の存在の大きさに改めて気付いた。そして、なにより、母の笑顔が見られなかったことが一番辛かった。母の笑顔は、ぼくにとっての安らぎと安心感だった。

通学合宿の四日目の水泳練習のときだった。記録会に向け一生懸命泳いでいると、プールサイドのかけから母が見守ってくれていた。そのことに気付いた瞬間、体がすっと軽くなった気がした。ハードな練習も頑張れた。母の存在は大きい。ぼくにとっては、かけがえのない存在だ。この一週間で家族への感謝の気持ちが大きくなった。離れて知った家族の偉大さ。これからも大切にしていきたい。

「いつもありがとう。」

ステキなチームワーク

西予市立野村小学校 三年 新崎 奈央 しんざき なお

わたしの家は七人家族です。お父さん、お母さん、お兄ちゃん、お姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、わたしです。夜ごはんはみんなでいっしょに食べます。お母さんやおばあちゃんが土間で作ったごはんを、みんなでバケツリレーみたいにして居間に運びます。

「よいしょ」と言って運ぶのでゲームみたいで楽しいです。わたしの家族はチームみたいなんです。だから、一人いないときさみしい気持ちになります。

わたしが夏休みに外で走っていて、こけてしまったことがありました。お母さんとお姉ちゃんが「大じょうぶ？」と聞いてすぐに来てくれました。しょうどくをして、カットパンをはって、いたいのをいいたいのとんでいけをしてくれました。お兄ちゃんが「今日のプールやめといたら？」と心ばいしてくれました。

わたしは、あったかい気持ちになりました。ステキなチームワークです。わたしもチームのいちいんです。

私たちなかよし三人きょうだい

西予市立惣川小学校 二年 川内 あおい

かわうち

私には、お姉ちゃんと弟がいます。私とお姉ちゃんと弟はともなかよしです。

お姉ちゃんは、たたかいごっこやお絵かきたいけつをしてくれます。お絵かきたいけつというのは、女の子の絵をどっちが上手にかけるかのたいけつのことです。私がまけることが多いけど、かき方を教えてくれるので楽しいです。

弟は、いつも「あそぼうよ。」と言ってさそってくれます。弟はきょうりゆうがすきなので、いつも人形でたたかってあそびます。たたかい方がかわいくておもしろいです。

三人で、ゲームをしてあそぶ時もあります。家作りたいけつをしたり、きょうそうしたりして、楽しくさけびながらあそびます。時どきけんかもするけど、私は、お姉ちゃんと弟のことがすきです。これからもずっと、楽しくなかよしな三人でいたいです。

自慢の妹

西予市立大野ヶ原小学校 六年 吉井 千乃

よしい

ちの

私は五姉妹の四番目です。私には一人の妹がいます。妹は、お姉ちゃんになりたくて、私は、妹になりたいと思っています。

私は、姉たちのように妹に、
「○○取って。」

と言いますが、妹は他の姉とはちがう態度をとります。だから私は妹になりたくて、妹は逆で言われるのがいやだから、姉になりたいと言っています。

でも、私は最近考えてみたら、姉だって良いことだけじゃなくていやなことだってあります。妹だって同じです。だったら、どんなことがあってもどっちかが、がまんをし、どっちかが、自由にする。これがあってやっと、取ってとか、貸してとかが言えるんじゃないのかと思いました。

私は、自分で考えたことを生かして姉で良かったことをたくさん見つけながら過ごさうと思いました。妹にも妹の良いところを見つければ、楽しく過ごしてほしいです。

「ありがとう」を伝えたい

西予市立三瓶中学校 一年 仲川 紗来 なかがわ さら

私が今まで、家族に対して思い続けたことは、「ありがとう」です。そのありがとうというのもたくさんあって、その中の二つを紹介します。

一つ目は、私を産んでくれたことです。何の問題もなく安全に産んでくれた母、それまで支えてくれた父や姉に、ありがとうを伝えたいです。

二つ目は、私を守ってきてくれたことです。私は末っ子で、ずっと家族に守られてきました。そのおかげで私も、元気で安心して過ごすことができます。他にも、祖父母や親せきのみんなにも、ありがとうを伝えたいです。

この二つは両方とも、命に関わることだと思えます。私は十二年間家族に支えられ、守られてきたことを感じて感謝してもしきれないものだと知りました。家族は宝物だと思います。改めて家族には「ありがとう」を伝えたいです。

母から受け取るお弁当

西予市立明浜中学校 二年 田中 萌亜里 たなか めあり

私の中学校は給食があるけれど、たまに行事ごとでお弁当を持って行きます。母は仕事をしているのです、とても忙しそうですが、早起きをしてお弁当を作ってくれます。私は周りの人に比べて食べるのが遅かったので、給食の時間はあまり好きではありませんでした。でも、お弁当がある日は自分の好きな物が入っているし栄養バランスを考えて、色とりどりのお弁当を作ってくれていて本当にうれしかったです。そのおかげでお弁当がある日はいつも楽しみで好きになりました。当たり前のように食べているけど、母は私のために早起きをして色々考えながら作ってくれているのだと思います。

お弁当は注文もできるのに、どうして一から作ってくれるのか聞いてみると、「お母さんも、子どもの頃にお弁当を作ってもらっていてうれしかったからだよ。」と話してくれました。私はその話を聞いて、ますます母のお弁当が大好きになりました。

お兄ちゃん

西予市立野村中学校 一年 宇都宮 うつのみや 和花 わか

私のお兄ちゃんはよく笑っています。私はお兄ちゃんの笑顔を見ると、自然と笑顔になれます。物心がついた時から、私はお兄ちゃんよりできることが多くなっていました。お兄ちゃんには障害があり、みんなよりのんびりのペースで歩んでいます。お兄ちゃんはどんな時も前向きで、楽しい時は笑い、嫌な時は素直に嫌な顔をします。例えば、好きなご飯が出てきた時は声をあげて笑ったり、好きなテレビじゃなかった時は全力で嫌がり自分の感情をちゃんと表現できます。

私は、一歩外に出ると自分の感情を表に出すことが苦手だから、お兄ちゃんに憧れることもたくさんあります。楽しい時は思いっきり笑って、嫌な時はちゃんと嫌だと伝えられる人になりたいです、何よりお兄ちゃんみたいに楽しく、前向きに歩んでいきたいです。私はそんなお兄ちゃんの妹になれて幸せです。

いつもありがとう

西予市立野村中学校 一年 大塚 おおつか 琉生 りゅうき

ぼくは親に感謝の気持ちが四つあります。

一つ目は、生んでくれてありがとうという気持ちです。生んでもらわなかったらぼくはいません。生んでもらったから生きていて好きなことなどもがんばれているのです。

二つ目は、育ててくれてありがとうという気持ちです。育ててもらえないとぼくは生きていません。今、ぼくが着ている服なども全部親のおかげです。食事もしないと生きていけません。

三つ目は、いろいろな物を買ってくれてありがとうという気持ちです。普段からぼくが着ている制服も親のおかげです。文房具なども親が買ってくれたおかげです。

最後に、支えてくれてありがとうの気持ちです。ぼくの体調が悪い時など、要求を聞いてくれる親には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。親は子供が宝と言いますが気持ちは一緒です親こそぼくたちの宝です。これからも親に感謝の気持ちを忘れずに生きていこうと思います。

家族の支え

西予市立野村中学校 一年 三瀬 聡真 みせ そうま

ぼくは小学校の四年生のころにいじめを受けていました。そのころ、あるていどはたえていましたが、だんだんといじめがエスカレートしていつて、自分はたえられなくなつてしまいました。だけど、自分はそれをかくしてずっと学校で生活していました。そして、いつか言おうと思つてもそれを言えずにいて、ずっと、それを何日も何日もくり返していました。

そして、あまりにもたえられなくなり、お母さんにいじめの事を言うと、学校の担任への電話だけでなく、夜中なのに学校まで行つて担任の先生にいじめのしようさいを話してくれました。ぼくは、助けてもらいすごくうれしかったです。

その後に、ぼくをいじめた人は先生に怒られていじめはなくなりました。ぼくは、時には家族をたよろうと思いました。

思い出の交換手紙

西予市立野村中学校 一年 藤原 夕万 ふじわら ゆま

私は小さい頃、おばあちゃんと交換手紙をしていました。夏休み中に机の引き出しを見てみるとその手紙がたくさん出てきました。一枚一枚読んでいくと、小さい頃おばあちゃんと遊んでいたことを思い出してとてもなつかしい気持ちになりました。私は最近中学校に入り部活などで忙しくおばあちゃんに会えない日が多くなりました。でも私が外で遊んでいる時は外に出てきてくれたり、朝学校に行く時にはお見送りをしてくれておばあちゃんはとっても優しいなと思いました。おばあちゃんとの交換手紙は一生の宝物であり、一生の思い出です。これからはもっと忙しくなりおばあちゃんと遊んだり会える機会は少なくなると思います。私にとっては大切なおばあちゃんなのでこれからもいっしょに遊べる時にはたくさん遊んでずっと長生きしてほしいなと思います。

募集要領

第12回「家族のきずな」エッセイ集

発行日：令和6年11月23日

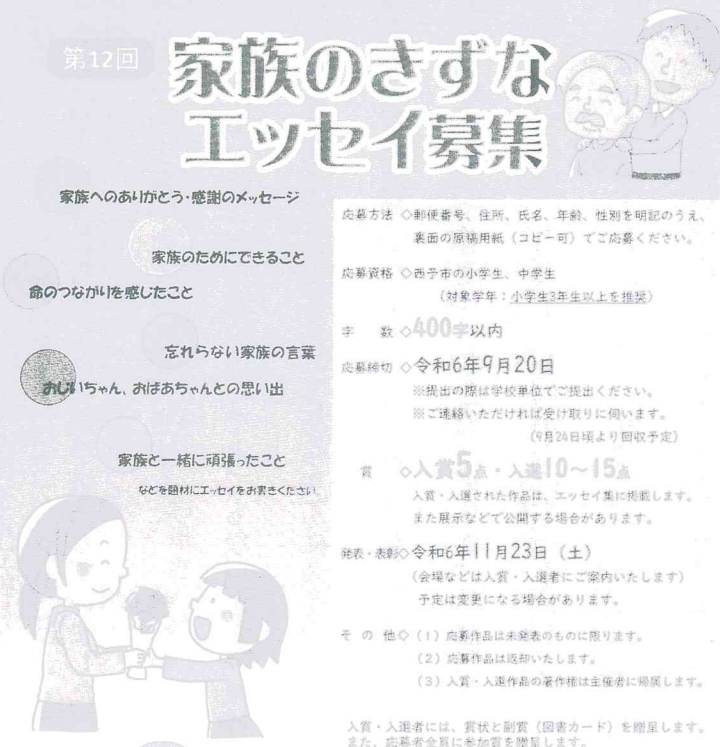
発行：愛媛南予モラロジー事務所

〒797-0018 愛媛県西予市宇和町下松葉 140-53

TEL：0894-62-0094 FAX：0894-62-0095

(本誌を無断で転載することを禁じます)

第12回 **家族のきずな**
エッセイ募集



家族へのありがとう・感謝のメッセージ

家族のためにできること
命のつながりを感じたこと
忘れられない家族の言葉
おじいちゃん、おばあちゃんとの思い出
家族と一緒に頑張ったこと
などを題材にエッセイをお書きください

応募方法 ○郵便番号、住所、氏名、年齢、性別を明記のうえ、裏面の原簿用紙（コピー可）でご応募ください。

応募資格 ○西予市の小学生、中学生
（対象学年：小学生3年生以上を推奨）

字数 ○400字以内

応募締切 ○令和6年9月20日
※提出の際は学校単位でご提出ください。
※ご連絡いただければ受け取りに伺います。
（9月24日頃より回収予定）

賞 ○入賞5点・入選10～15点
入賞・入選された作品は、エッセイ集に掲載します。
また展示などで公開する場合があります。

発表・表彰 ○令和6年11月23日（土）
（会場などは入賞・入選者にご案内いたします）
予定は変更になる場合があります。

その他 ○（1）応募作品は未発表のものに限ります。
（2）応募作品は返却いたしません。
（3）入賞・入選作品の著作権は主催者に帰属します。

入賞・入選者には、賞状と副賞（図書カード）を贈呈します。
また、応募者全員に参加賞を贈呈します。

送付先・問い合わせ先

愛媛南予モラロジー事務所
〒797-0018
西予市宇和町下松葉140-53
TEL 0894-62-0094
FAX 0894-62-0095

（当事務所は、公益財団法人モラロジー道徳教育財団より設置を承認された組織です）

主催：愛媛南予モラロジー事務所 後援：西予市、西予市教育委員会
西予市小・中学校長会、西予市PTA連合会